

## 令和5年度 英語科授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・習熟度別少人数指導の特性を活かし、生徒一人一人にきめ細やかな対応をした結果、全学年ともに目標値を超えることができた。基礎的な能力がついてきている。
- ・日頃からペアワークやグループワークを行い、定期的にパフォーマンステストを行ってきた。ペアワークやグループワークでは、生徒同士で助け合いながら、英語を話そうと努力していた。パフォーマンステストでは、ALT と協力し準備を行い、生徒は表現力をつけてきている。
- ・引き続き、全学年において習熟度を考慮し、ほぼ学力に偏りがない少人数クラスを編成し、授業内における自主的な発言や生徒間の英会話をさらに活性化させる。

#### (2) 課題

- ・各学年、基礎の正答率に対して、活用の正答率が低いので、学習したことを活用することに課題がある。
- ・知識・技能の正答率は目標値を上回っているが、思考・判断・表現が目標値よりやや上回っているか、下回っている。自分の考えや思いを書いたり、話したりすることが課題である。
- ・単語テストなどの小テストを定期的に行い、学習の目標の一つにしているが、取り組みの定着に時間を要している。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎・基本、領域別の正答率は全て目標値を上回っている。問題の内容別の英作文において、目標値を達成することができなかった。	/	/
第2学年	「基礎」「聞く」「読む」領域において目標値を上回った。「書く」「活用」の領域で目標値を下回っている。また、区平均をほとんどの領域で下回っている。	目標値は、5ポイント以上、上回ることができた。「書く」ことは区の平均を若干超えられたが、「聞く」力が特に下回っている。	/
第3学年	基礎・活用や各領域はおおむね目標値を上回っている。しかし、区の平均値と比較する、全て下回っている。	目標値に対しては、おおむね達成できている。しかし、区の平均値は下回っている。英語を読むことが特に平均を下回っ	小学校で学習した「聞く」や「書く」は「目標値に届いているが、場所を表す前置詞は目標値に届かなかった。

		ている。	
--	--	------	--

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に目標値を上回っている。</li> <li>・アルファベットと音は一致しつつも、大文字と小文字の混同が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を話したり、聞いたりする意欲は高い。「聞くこと」は区の目標値を大きく上回っている。</li> <li>・英作文の目標値が大きく下回っているため、書く力を伸ばす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に取り組む態度は、目標値を2.6ポイントマイナスではあるが、英語に対する学習意欲は高い。</li> <li>・授業時では、主体的に発言し、ペアワークも積極的に取り組んでいる。</li> </ul>

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くことについては目標値をおおむね上回っている。</li> <li>・語形や文法の理解不足が読むことの目標値を下回っていることの原因の1つと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面に応じて書く英作文、3文英作文について目標値を大きく下回っている。</li> <li>・授業の中で短い文から書く活動を行っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を大きく下回っている。</li> <li>・英語を話すことには興味をもつ生徒が多いが、英語を書くことについて特に苦手意識がある生徒が多い。</li> </ul>

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・語形や語法については、おおむね身につけている。ただ、助動詞の後の活用方法が平均値を下回っていたため、動詞がどのように変化するか定着していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を読んだり、書いたりすることは区の目標値を上回っていることから、身につけていると言える。</li> <li>・ただ、即興で英語を話したり、やりとりを行ったりすることは課題を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の学習に取り組む態度は、区平均を5ポイント上回っていることから高いと言える。</li> <li>・ペアワークや英文作成のような活動は自主的に行うことができている。</li> </ul>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃からアルファベットの大文字と小文字を区別するよう指導する。</li> <li>・アルファベットの文字と音が一致するよう、英単語の読み練習、英文の音読練習を重点的に行う。</li> <li>・定期的な小テストを実施し、基礎基本の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯活動で教師の英語での質問に対し英語で答える活動を行い、即興で英語を話す機会を増やす。</li> <li>・ペアワークやグループワークを行い、英語を話す環境を設定する。</li> <li>・学期に1回スピーチを行い、英語の表現力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な英会話文を覚え、教師の前で発表し、英語で表現できたという自信をもたせる。</li> <li>・定期的な小テストを実施し、家庭学習のペース作りを継続して支援していく。</li> </ul>

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・「書く」力の基礎として単語や文法の定着を図るために、復習を意識した授業展開を行う。</li><li>・タブレットのドリルなどで課題を定期的に配信する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「書く」力を伸ばすために、教科書の Q&amp;A に答える問題に取り組む。</li><li>・スピーチやエッセイなど「書く」活動を学期に1回以上は行う。その際ALTと協力し、Writing活動で生徒が質問しやすい状況をつくる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・引き続き ICT 機器を用いた授業展開を行い、生徒の興味・関心を引く工夫をする。</li><li>・対教員、対生徒同士の発話する機会を多くし、「自分の英語が通じた」という自信を持たせるような授業展開を図る。</li></ul>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・English 4skills で文法の復習を行い、基礎学力の定着を図る。</li><li>・ドリル学習で繰り返し文法を学習したり、既習事項を活用しながらの授業展開を行って復習したりできる授業展開を行っていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・即興で英語を話すために、帯活動でトピックチャットを行い、英語を話す機会を増やす。</li><li>・学期毎にスピーチテストを行い、英語を話す機会を増やしていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・外国語教育指導員(ネイティブスピーカー)の英語に触れる機会を多く設け、英語への学習意欲が高まるような環境を作る。</li><li>・English 4skills を活用し、自宅学習ができる環境を作り上げていく。</li></ul>